

も付記しておく。それらが自他にわたる批判だけにとどまるものでなく、反省と工夫とに通じて教化の推進力となるものであることを期待したい。

要望事項

お題目総弘通運動のスローガン「お題目で人間尊重の精神を」は、「お題目で生命尊重の精神を」として下さい。

(大島啓禎)

私の信行活動

——分散会の発言から——

鎌 田 行 学

(愛知・妙恩寺住職)

①この一年間、どんな信行活動をしたか

1、月例講話会 毎月二回。

毎月五日 午前中 年回忌法要、午後 講話。第

三月曜 午後 招聘講師講話。水子供養会 毎月

一回。第二日曜 午前 年回忌、午後 一般供養

会。

2、法座 毎月二十五回、地区十一班。

3、月例お題目講 毎月一回、地区十一班。子供お題目講 毎月一回。

4、寒修行 地区十一班、子供会・婦人会・青年会・一般信徒。

合同寒行 三回、子供会・婦人会・青年会・一般信徒 約一二〇〜五〇名。

5、月例信行会(自修会) 毎月一回。

6、当山身延山檀信徒研修 年間二回。自修会・竹の子会各一回。

7、月例子供会(竹の子会) 毎月一回(各地区の法座に於て、毎月近座を勤める)。夏期情操研修会(三河宗務所主催) 年一回。

8、月例青年会(若竹会) 毎月一回。唱題行脚 毎月一回。

行事・パンフレット配布・全国日蓮宗青年の集い・中学高校生のための修養道場・滋賀県領善寺青年会との交流。

「社会の人は今お寺に何を求めているか」 宗教意識調査

1	私達の生活において宗教は必要なものと思えますか。				
	ぜひ必要なものである	あった方がよい	なくてもかまわない	ない方がよい	わからない
日蓮宗	60%	36	3	0	1
他宗	38%	51	5	0.7	5

2	宗教が必要だと考える理由				
	心のささえ心のよりどころ	心のやすらぎ落ち着き	先祖を敬うとむらうなど	儀式に必要	精神修養・向上心・モラル・バックボン・特に意味はない・わからない・無解答
日蓮宗	47%	21	58	8	5
他宗	21%	25	60	7	6

3	「これからのお坊さん」はどういう人であってほしいか				
	頭をそり衣を身につけた人	普通の人と同じ姿で布教に励む人	妻子をもたず、修行に励む人	その他	無解答
日蓮宗	34%	48	5	6	7
他宗	36%	46	4	4	10

4	どんなときに「お坊さん」を訪ねますか。						
	葬式・法事をお願いするとき	仏教の教えを説いてもらうとき	困ったときや悩んでいるとき	茶飲み話をするとき	訪ねない	その他	無解答
日蓮宗	51%	50	21	2	3	1	2
他宗	74%	19	8	0.7	5	1.5	3

5	なんのために「お寺」に行きますか。					
	葬式・法事に参加するため	精神をきたえるため	無解答	お寺の行事(葬式・法事以外の)に参加するため	祈禱をしようため	無解答
日蓮宗	42%	48	10	56%	18	26
他宗	68%	17	15	39%	21	40

6	「これからのお寺」は何をすればよいと思いますか。					
	葬式・法事を熱心にする	信行会などをする	無解答	仏教をわかりやすく教える	人々の憩いの場となる	無解答
日蓮宗	26%	54	20	63%	22	14
他宗	43%	27	30	50%	27	23

7	「お坊さん」にいま何を望んでいますか。					
	生活の手本となってくれること	仏教の教えを説いてくれること	相談相手になってくれること	何も望まない	その他	無解答
日蓮宗	31%	53	28	3	3	5
他宗	43%	36	40	15	12	3

8	「お坊さん」についてどのように感じますか。							
	ありがたい感じ	いやな感じ	とくに感じない	無解答	明るい感じ	暗い感じ	とくに感じない	無解答
日蓮宗	68%	0.6	24.4	7	46.4%	1.6	31	21
他宗	50%	1.5	39.5	9	26%	6	48	20

9	「お寺」はどんな感じがするところですか。							
	ありがたい所	いやな所	とくに感じない	無解答	明るい感じのする所	暗い感じのする所	普通の場所と同じ感じのする所	無解答
日蓮宗	71%	1	20	8	43%	14	20	23
他宗	54%	2	34	10	22%	20	27	31

10	どのような「お寺」がよいと思いますか。					
	豪華に飾られているお寺	簡素で心にうるおいを与えるお寺	無解答	立派な庭園があるお寺	子供の遊び場となるようなお寺	無解答
日蓮宗	8%	86	5	14%	49	37
他宗	4%	84	12	9%	50	41

○昭和60年3月調査 ○愛知県西尾市妙恩寺 ○日蓮宗（180名）、他宗（820名）

9、月例婦人会（蓮の会） 毎月一回。

講演「現職教師による高校生の状態について」「人間にはなかなかない」（精香園園主山本修司先生映画観賞「教育は死なず」（教育委員会提供）

② 社会の人は、今お寺に何を求めていると思いますか

宗教意識調査十項目に基づいて、千名を対象に行なったが、その結果は、次の図表の通りである。

③ 信行会活動を蘇生させる妙案は何だと思うか

各家庭に於て、お題目のお陰で生かされて生きている法悦を自覚させ、信行会活動は檀信徒の生活状態をよく観察して方策を立てるべきだと思ふ。

現在、家が有つても家庭の無い家が多くなったが、家族はみんな家庭の一員であり、家族が皆、自分の勤め、持ち場を守つて支え合い、つながり合つて家全体を組み立てているということに目覚めて、協力し合はぬ限り、家と人とのつり合いが破れ、不動・不徳が生じる。

仏と先祖と親という根に、家族一同が互いに支え合つて、守り合つて善根・積徳の肥料を施し、耕作し続ける

ように指導していくのが、導く者のつとめだと思ふ。仏

の教えによつて、生命の正しい在り方を知り、その教えの道を実行する。その中に生かすもののみ生かされ、与えるもののみ与えられるという大自然の法則は、そのままの教えであつて、その真理のルールに乗つて生きていくことが、道を以て樂を受くということである。それを、導く者は常に先頭に立つて実践し、信徒・未信徒にこの有難いお題目の功德を味あわせることが大切である。家庭が一丸となつて、法華経の真理に生かされ、仏の慈悲に包まれ、お題目のお陰で生かされているという切々たる感激と、報恩報謝の実践の行が信行会活動の原動力だと思ふ。

④ 家庭や社会に於ける信行生活をどう指導しているか

私の所では、家族総ぐるみの信仰を根強く実践するために、幼少年を対象に子供会（竹の子会）、中学生・高校生・未婚の社会人を対象に青年会（若竹会）、未婚者・既婚者を含めての婦人会（蓮の会）、男女青年・壮年老年を含めた信行会（自修会）等があつて、それぞれの組織の中

で信行にはげみ、各家庭では、家族が一丸となってお題目の信仰生活が出来るように指導している。

又、学校・職場、あらゆる場所、あらゆる機会に法華信仰の尊さと喜びをもつて、お題目の種を人の心に植えるように指導している。家庭内での色々な出来事に対して、基本的な導き方として、(イ)嫁と姑との不和合、(ロ)親と子の不和合、(ハ)夫と妻との不和合、の場合は、どのように話を運ぶか。体験を通して、世間一般のありふれた話・因縁果報の理と数理・易。病人には、病と心づかいの関係・法話など応用して、人生相談に応ずるように指導している。

又、信仰へ有り方については、「仏がこの世に出られた目的はなんでしょう」。

方便品には、それをはっきりと示して、四仏智見を説かれました。

人間は何んの為に生きるのかという、仏の智慧を、すべての人間が身につけることができるよう、この一大事の為に、仏はこの世に出られたのだという目的を、私たちに示して下さい。

譬喩品には、「悉く是れ吾が子なり」とある。私たちがこの世に生を受けた目的は、実は、この一事にかつたのである。

私たち、仏の子としてこの世に生まれ、仏の命を受け継ぐことがなかったら、仏子と言えらるだろうか。たとえ口にお題目を唱えているようでも、「信心の血脈なくんば法華経を持つとも無益なり」。

法華経の教えが、親から子、子から孫へと受け継がなかったら、その人一代で法華経は絶えてしまう。先祖の救いも絶えてしまう。

何んの為に題目を唱えるのか、何んの為に経を読むのか、それでは、法華信仰をしているようでも、なんの役にも立たない。この法華経に会い、教えを学ぶことによつて、初めて目が開かれたのである。

「今日乃ち知んぬ、真に是れ仏子なり、仏口より生じ法化より生じて仏法の分を得たり」

経意をよく理解し、仏の教化の仕事に加わることで、きたことを心より有難く思い、法華信仰の功德によつて、応宣流布の一役を担つてお手伝いできるようになった皆

さんの喜び、感激はいかばかりであろう。

私は又、法師品第十の中の一文を引用して、

(1)是の諸人等は已に曾て十萬億の仏を供養し、諸仏の所に於て大願を成就して、衆生を愍むが故に此の人間に生ぜんなり。

(2)衆生を哀愍し、願ひて此の間に生れ、広く妙法華經を演べ分別するなり。何に況んや、盡して能く受持し、種々に供養せん者をや。

(3)若し是の善男子善女人、我が滅度の後、能く竊かに一人の爲にも、法華經の乃至一句を説かん。当に知るべし、是の人は則ち如来の使なり。如来の所遣として如来の事を行ずるなり。

前生に於て、そのような修行を積み重ねて来た人に、私は後の世に如来の使いとしての重大な役目を仰せつけられたかを、勸持品以後にみたい。

妙法蓮華經勸持品第十三

「若し世尊我等に此の經を持説せよと告勅したまはば、當に仏の教の如く広く斯の法を宣ぶべしと、復た是の念を作さく、仏今默然として告勅せられず、我當に云何が

すべきと」「我世尊の前、諸の来りたまえる十方の仏に於いて、是の如き誓言を発す、仏自ら我が心を知しめせ」。安樂行品では、四法が説かれる。

「仏に敬順したてまつるが故に、大誓願を發す、後の惡世に於て是の法華經を護持し、誦誦し、説かん」

「仏、文殊師利に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩、後の惡世に於て是の經を説かんと欲せば當に四法に安住せし」。

身・口・意・誓願安樂行の四つの基本的な心得が説かれましたが、涌出品第十五に入つて、仏は諸の菩薩に対して、

「止みね善男子、汝等が此の經を護持せんことを須ひず、所以は何ん、我が娑婆世界に自ら六萬恒河娑等の菩薩摩訶薩有り、一々の菩薩、各六萬恒河娑の眷屬有り、是の諸人等能く我が滅後ち於て護持し、誦誦し、廣く此の經を説かん」、ここに重大な発言をし、更に、「娑婆世界の三千大千の国土、地皆震裂して其の中より無量千萬億の菩薩摩訶薩有りて、同時に涌出せり」。

この地涌の菩薩にあらずんば、唱え難き題目なりの文

意を悟り、家族総ぐるみの命がけの信仰が親の成仏は即ち子の成仏、子の成仏が即ち親の成仏なり。

⑤ 信仰の仲間づくりはどう取り組んでいきますか

信とは、仏の説かれた教えの中でも、「今汝に告ぐ、我が所説の諸経、而も此の経の中に於て、法華経最も第一なり」と説かれた、この最高最勝の教えによつて、自分だけの狭い考えに執られる気持ちを離れて、清らかな気持ちで真心から信ずること。

行とは、法華経の中に説かれた教えの真理を身につけることによつて得られる幸せの事。

人間が現世に生活しながら、汚れに染まらず、幸せな生活を送る為には、自分にも他の総ての人にも、仏の種を宿している事を知り、他の総ての人にも成る程と解らせ、その仏の種に水を与え、肥料を施し、芽を出させ花を咲かせ実を結ぶまで、自ら法華経の真理を実践し、縁ある人々をそれまで導いていく事が行ということであつて、生かされて生きていくという実感を味わせる事である。

こうした理念を以つて、一人でも多くの人に呼びかけ、

お題目の輪を広げていくように心懸けている。

法華経は孝経の教えであるから、如我等無畏の仏意と一切衆生異の苦を受くるは悉くこれ如来一人の苦なりとの仏意を身口意に実践し、仏意に応えていく努力が、地涌の菩薩の使命であり、仏子としての努めであると思う。

⑥ 信行会について、寺院間の協力をどのように推進

していただけますか

各寺院内に、何かの形で信行の会を作っているという前提の上になつて、「協力をどのようにしていくか」との問いと思う。

本宗は現在、一口に言つて、五千カ寺といわれているが、その中で信行会が結成されている寺院は僅か約二十パーセントの千カ寺を対象としての問いとすれば、信行会を結成されている寺院と、いない寺院の寺数と、各管区における分布図、結成されていない寺院の信行会に対する必要性の有無とか、事情なり、その他に就て詳細な事情を所属機関に報告して頂き、その資料に基づき、各部門の専門委員が体験をふまえて、誰もができる信行会作りを提出者と共に研究し、指導に努めてはどうか。自

分では、現在消極的だが、統一信行を通してとか、その他行事など通して、寺院間の親睦を深めることに努めている程度であるが、希望としては、法華信行を強盛に推進してゆくために、他寺院の信行会々員との信行を通しての交流を切に希望してやまない。

⑦ 本宗のお題目と新興宗教のお題目の違いをどう説いているか

ある新興宗教の教団では、釈尊並びに、日蓮聖人の御聖意を奉戴し、会の本尊は「久遠実成大恩教主釈迦牟尼世尊」であつて、「一切衆生の仏性を開顕」するところの会長を大導師と仰いで会員がこぞつて仏子としての自覚をもつて、法華信仰が行われていると聞く。

所謂、釈尊よりゆだね任された如来の使い上行菩薩の再誕である、日蓮聖人に従つてお題目を唱えている訳ではない。日蓮聖人の弘められた題目の心からはずれたものであつて、釈尊の御心に守られるという、真の悟りを得ることは、非常に困難であると思われる。

本宗の題目は、法華経の中に説かれた仏の教えに基づいたものであつて、南無妙法蓮華経と唱えることによつて、

ただちに釈尊と直接結びつく教えである。

渡辺宝陽先生は、『私達の日蓮宗信行への道』という書の中で、「その教えは、量り知れないほど奥深い世界を背後に持ちながら、南無妙法蓮華経と唱えることによつて、ただちに釈尊と直接結びつく教えである」と述べられている。

日蓮聖人は、真理を求め、真理を広く弘める姿を常不軽菩薩の修行と重ね合わせて説かれた。「我深く汝等を敬ふ、敢て軽慢せず、所以は何ん、皆菩薩の道を行じて、当に作仏することを得べし」と会う人々に近づいて、礼拝することを誓願した常不軽菩薩は、礼拝の行を続けて、やがて仏になられたと述べられた説をもつて、檀信徒に説明している。

この菩薩を妙法蓮華経不軽菩薩品は、その菩薩こそ釈尊の前生の姿であつて、こうした法華経を身をもつて実践されたことと、日蓮聖人の残された業績とが、ぴったりと一致することを説き示して、日蓮聖人は、確かに、自身こそ上行菩薩の割り当てられた役を、責任をもつて受け持つ者だという、自覚に到達されたのである、と渡

辺宝陽先生はその本の中で説き明かされている。

本宗僧侶は、宗祖日蓮聖人、上行菩薩の眷属として、その意を實踐し、身軽法重・死身弘法につとめてきたと私は思う。

⑧お題目の意味と功德をどう説いているか

お題目の意味については、私は六度万行具足と受け取っている。六波羅蜜は、一切善行の大本であるから、広くいえば万行となり、合すれば布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧の六つが完全に具っていることを、妙法蓮華經の五字でいい表わしていると思う。

妙法とは、こよなき真理、蓮華とは、こよなき真理を泥の中にまみれながらも、その泥に染まらず、泥の中から清らかな花と実とが同時に咲いて実するという、こよなき真理を蓮華に譬えたもので、末法の世になって人間の心も險しくなり、善悪の判断もつかず、自分勝手な振舞いが横行し、ドロドロに汚れた苦惱の世の中に住みながら、その諸悪に染まらず、妙法蓮華經の真理に生かされて、清らかに立派に生き、文字にも書き表わせず、言葉にも語り尽くせぬ程の尊い教えに生かされて生きている

喜びを、世の中の人々の心に植えていくという誓願と、現世に常寂光土の理想社会の建設に向かつて、妙法五字に生命を投げ出して帰依(南無)するという事であつて、經とは、そのような尊い教えということ、つまり、妙法五字を信じて「我等この五字を受持すれば、自然に彼の因果の功德を譲り与え給ふ」、成仏されてからすべての人々を救済活動によつて積まれた徳を、そのまま譲られて、自然に凡夫の境界を離れて仏の境界に達することができる。

注意したい事は、この經を深く信じ、その信を持ち続けるという受持が修行の眼目であるから、受持が欠けては、その功德にも当然差別があることを知らねばならない。日蓮聖人は、『松野殿御返事』の中で、「智者が所持している金も、愚者の持ちたる金も、其の差別はないが、この經の心に背いて唱える題目には差別がある」と述べられる。

⑨二十一世紀に向かう本宗教師の使命は何だと思ふか

日蓮宗は、宗祖以来七百有余年の伝統を以つて、強力

な宗教組織を持つているから、いつの世までも妙法蓮華經の五字の題目が日と共に広く流布されてゆくであろうが、この十有余年至るところで、現在の仏教は葬式仏教であるとか、僧侶は墮落して外車を乗り回しながら、葬式・法要・祈禱・戒名に多額の金を要求して、自らはぜいぜいな生活をしている。

寺院は積尊の足跡を踏むことを忘れ、観光寺院にと変わりつつある。そうした宗教家には頼れないなどという非難もある。

新聞やテレビでは、残忍凶悪な事件が続発して、全く暗黒時代の様相を示している。太平洋戦争の折、当時の軍部に反抗して投獄された政治家に中野正剛（せいこう）があった。悪世を救う役割を身を以って果たすのは、政治家か宗教家か。鎌倉幕府に命をかけて『立正安国論』を叩きつけたのは、日蓮聖人であった。

二十一世紀に向かう本宗教師は、地涌の菩薩としての自覚をもって、仏の使者としてのつとめを果たすべきだと思う。

二十一世紀に向かう教団の在り方について一言すれば、

本宗が開かれたその土台は、鎌倉時代の政治・経済・思想といった時代相の中から生まれ、今日もなお忠実に、經典・遺文の解釈をされた本が店頭に並んでいる。二十一世紀を向かえようとしている今日、時代に即応した經典・ご遺文の解説が欲しい。

現在、大聖人がご在世であつたら、現代の政治・経済・思想をどのようにお考えになり、どのように教えを説かれるであろう。「仏大慈悲を起し、妙法五字の袋のうちにこの珠をつつみ末代幼稚の首にかけさしめたもう」というように、教えが現在も尚、説かれるであろうか。

既成教団が寺の上にあぐらをかいている中に、檀信徒の多くは寺離れをしていった。在家の勝れた仏教指導者たちは、僧侶に依存できず、独自に教養を学び、時代に目覚め、新しい生き方を生み出し、実践し、実生活の中から新たな道を開いて現在の新興宗教が生まれ、発展し、現在のマンモス教団となった。身延山本堂建立奉納金も、多額の建立費のその大部分が新興宗教であると聞く。

私は落慶式の法要の際、つくづく反省した。宗門は少年少女修養道場・中学高校生のための修養道場、全国信

徒青年会並びな全国檀信徒研修道場を開設した。その少年少女は、そして中学高校生は、全国信徒青年、はた又檀信徒研修道場を出た人達は、その後、どのような信仰生活を送っているだろうか。

各管区各寺院教会に信行会や、それに類似した題目講なり、何らかの組織もないところは土造りに懸命に努力し、教えの種を植えることが必要である。土の無い所には種も蒔けず木の実もならないと思う。

⑩お題目の輪を広げる運動を皆で考えましょう

各寺院が未だ信行会のできていない所は、管区に於て、各寺院より、幼・小・中・高・青年一般檀信徒の中より、リーダー養成の目的を以つて、若干名の代表を送り、日青・布教師会・社教等合同にて、指導方針を立て、年間の教化日程と、その内容について検討し、実践への足がかりを作り、管内各寺隠より選抜された檀信徒に、強い期待を寄せて、管内幼少年・中・高生・青年・壮年というようにそれぞれに一団体を作り、その所で檀信徒の一体化を計れば、寺院間の交流も深まり、又それぞれの会を作り、住職がこれを指導すれば、これが基となつて、

一天四海皆帰妙法につながると思う。

二十一世紀に向かわんとする今日もなお、啓蒙したり、立派な意見を発表したり、立案することも大切である。批判をするもよいだろう。だが今日、何が一番望まれてるかという事は、理論よりも先ず実践することである。実践のないところには、花も咲かず、実もならない。